

# 都市計画 Who was Who

## Who was Who on City Planning in Japan

Who was Who  
ワーキング・グループ

法政大学・千葉大学	伊 東 孝	神奈川県都市政策課	越 沢 明
幹環境アセスメント研究所	昌 子 住 江	財団法人不動産研究所	鈴 木 栄 基
明治大学行政研究所	山 田 正 志	東京大学農学部	渡 辺 達 三

### 1. はじめに

明治以降のわが国近代都市計画は、社会的経済的変化を受けた都市化の急速な進展にともなう都市問題、あるいは震災などの災害を経験し、計画および事業に関する技術手法が大きく発展してきている。

それは、地域制度や土地区画整理制度、あるいは住宅地および商業地の計画手法の変遷、もしくは今日の各種解析手法などを見れば明らかであろう。

そして、今日の経済情勢の中で、東京を代表とする大都市では、新たに国際的な対応を迫られながら、再開発が盛んに進められるようになってきている。

こうした活発で敏速な動きのなかで、都市計画はより高度な技術と事業の成果を要求されることになるが、それにともない、従来必要とされなかった新たな専門的知識と職能をもつ専門家の参画する機会が増えてくる。

明治期の東京改造すなわち東京市区改正事業の立て役者は、府知事・内務大臣などを歴任した芳川顕正であった。その後、大正末から昭和初めにかけての震災復興で大規模な土地区画整理の実施にふみ切った後藤新平内相には、共に「都市研究会」を構成する池田宏、佐野利器らからなる多数のブレーンがいた。また、震災復興では、多数の建築系技術者が参加して、土地利用計画のモデル案が作られたことなどが知られている。

さて、都市計画史研究の動向をみると、都市計画の事業の成果、計画行為あるいは技術手法、またそれらと結びつく社会経済的な変化などについての研究は、未だ多くのテーマを残しつつも、進められているが、都市計画を実施する主体側である専門家については、その人物論的なアプローチを試みた例は少ない。計画され、実施されたフィジカルなものは、係わった主体を離れて一人歩きし、その人物は忘れられてしまうということになる。

英国の都市・地域計画学者ゴードン・E・チェリーは、都市計画史には、(1)技術や実践の歴史、(2)専門家の参入の歴史、(3)社会的・制度的背景の歴史、(4)伝記的歴史があり、(4)についての研究が不十分であると指摘して

いる。

計画の実施や技術に関する歴史的な展開を扱うことは、都市計画史の中で重要なテーマとなること論を俟たないが、それらは関与する専門家のパーソナリティや本人のえがくイメージによって、微妙にまた時には大きく変わることもなる。

都市計画の専門領域の違いをこえて、現在進行中の、あるいは将来起こり得る問題に対処していく過程で、いかなる主体がどのような契機、動機からどういう方法で参加したかをみることは、また重要で意義のあることであると考えられる。そして、そのためにはそれに大きくかかわった人物について、その基礎的資料として、伝記的な情報を整理する必要性がでてくる。

### 2. 都市計画 Who was who とは

わが国の都市計画に関する法制度の中で先駆的な位置にある東京市区改正条例が公布されたのが1888(明治21)年8月であり、それから来年でちょうど百年目を迎えることになる。

これを機会に都市計画史研究の基礎的な資料、あるいは簡単な手引きとして、近代都市計画史の中で顕著な業績をあげた人物について、都市計画にかかわる有用な情報を収集し整理することは意義のあることであると考えられる。そして、戦前戦後を通じて活躍された方々が高齢に達している今日、それは早急になされる必要がある。こうして、とりあえず物故者についての情報を収集・整理することになったのである。これが「都市計画 Who was who」企画の趣旨である。これに似た性格の作業は、独自の立場から、すでに土木学会、日本造園修景協会などでも行なわれている。

「都市計画Who was who」は本号特集企画担当である都市政策史小委員会の活動の一環であり、一昨年秋よりワーキンググループを結成し作業を始め、約250名の人物をリストアップし、現在その取りまとめを行っているところである。リストアップにあたっては、本企画の趣

旨とあわせて、先輩の方々のご意見を聴取し、できる限り遺漏のないように努めたい。

今回はその一部として、とりあえず17名を紹介することにした。17名の選考にあたっては、斯界を代表する人物のみならず、ユニークな活動によって都市計画の発展に寄与したものの必ずしも広く知られているとは限らない人をも取りあげるとの方針をとっている。

後者では、たとえば大屋霊城は、戦前から国立公園よりも都市公園造成の必要性を主張し、先見的であったが、活動の拠点が大阪で、しかも夭折したため比較的良好に知られていない。兼岩伝一は、名古屋を中心に結成されていた「区画整理研究会」で『区画整理』を発刊するなどの活動を行っていたが、同時期上司であった石川栄耀ほどには知られていない。

### 3. 多様な情報の収集と整理

「都市計画Who was who」では、原則として個人の業績を整理することになっている。しかし、それだけではその業績を生き生きと説明するには不十分である。

「Who was who」をまとめるに当たっては、特定の文献・資料を通じてだけでは把握できないような人物像・人となりについても可能な限り記載する方針にしている。それは個人の手になる回顧的な記述には及ばないかもしれない。しかし、特定の業績を通じて、その人物の人となりや推測することは厳に慎まなければならない。業績のみならずエピソードなども混じえ、ある程度まとまった情報を収集することが必要となる。後藤新平は20歳にみたないころ、片足に草履、片足に下駄という生活にもかかわらず名医を志し、「小成ニ安スヘキニ非サレハ」として、月給よりも師を選ぶような冲天の志をいざしく人物であったことが知られている。また、業績と個人の資質とをうまく結び付けることができるならば、都市計画の専門家にとって何が重要な資質であるか、などのテーマについても有益な示唆を与えることになる。

そのため、都市計画に関係する顕著な業績のみならず、個人の経歴および個人に係わる基礎情報について、「個人別資料カード」の作成にとりかかっている。「カード」の作成は、小委員会が各分野の方々の意見を聴取しながら、適任と判断した方に、その解説原稿の執筆とあわせてお願いしたいと考えている。

なお今回、紹介する人物は、これまで行なってきた作業の成果の一部であり、今後機会をみて、さらに多くの方々について整理し、発表していきたいと考えている。

### 4. 今後の方針

「都市計画Who was who」は、都市政策史小委員会が

以前から続けてきた諸先輩へのインタビュー活動の延長線上にあり、最終的に取りまとめができるのが、何人になるか不明であるが、それまでに特に次の点に留意しながら作業を進めてゆくものとした。

まず、地方都市の計画、建設に当たって民間人の立場などから注目すべき貢献をした人物についての情報をできるだけ多く集めることとし、その点で、会員の方々にも特段の協力をお願いする次第である。

つぎに、都市計画史に対する関心を広めるためにも、収集した資料をどう整理し、活用していくかについて十分検討し、工夫をしていきたいと考える。例えば近代都市計画史を人物論的に俯瞰することのできるような成果物とすること等が考えられる。そのためには、計画図面、写真などを駆使し、個人の業績と都市計画上の要点とを、視覚的に訴えていくような手法も有効となろう。

「Who was who」は、ますます専門分化し、ややもすれば計画の主体が埋没し、共通した関心事が少なくなりがちな今日、とくに若手の実務家や研究者に情熱をかきたてるような情報を提供し、刺激剤となることをも期待している。そして、注目すべき人物や重要な人物については、さらに時間をかけた資料の収集と調査を行ない、伝記的テーマを通じて、都市計画と都市計画史に対する関心が多くの人々に広がるようなものとした。

付記 伊部貞吉については藤田金一郎先生（昭和62年1月急逝）に執筆をお願いしていたが、容態悪化のため鈴木（日本不動産研究所）が事前にお聞きしていた内容をもとに取りまとめを行なった。

（文責 渡辺、越沢、鈴木）

つぎに、今回とりあげる16名とその執筆者を示す。なお、建築出身のもう1人についても掲載を予定していたが、執筆者の都合により見送ることになった。

安部 磯雄	山田 正志	（明治大学行政研究所）
伊部 貞吉	鈴木 栄基	（日本不動産研究所）
上野英三郎	渡辺 孝夫	（東京土地区画整理協会会長）
大屋 霊城	平野 侃三	（東京農業大学教授）
折下 吉延	佐藤 昌*	（日本公園緑地協会会長）
兼岩 伝一	竹重 貞蔵*	（福岡土地区画整理協会相談役）
榎木 寛之	奥田 教朝*	（都市計画コンサルタント協会会長）
神戸 正雄	石本 貴一	（明治大学大学院政治経済学専攻）
北村徳太郎	木村 三郎*	（国土総合開発顧問）
近藤謙三郎	越沢 明	（神奈川県都市部都市政策課）
鈴木栄太郎	渡戸 一郎	（地方自治協会）
田淵 寿郎	竹重 貞蔵*	（福岡土地区画整理協会相談役）
野坂 相如	浅野 英	（日本都市計画学会専務理事）
菱田 厚介	小宮 賢一*	（神奈川県建築審査会会長）
松村 光磨	佐藤 昌*	（日本公園緑地協会会長）
山田 博愛	松井 達夫*	（都市計画協会顧問）

（\*は当学会名誉会員）